



新井妙高ロータリークラブ週報

通算第 3115 回 本年度第 11 回例会 2025.10.22 (水)

室賀ガバナー公式訪問

会長挨拶

皆さんこんにちは。本日も例会出席ありがとうございます。そして、本日大変はお忙しい中、ガバナー室賀信宏様、ガバナー補佐、小田島修平様、地区幹事 関根功雄様、お越しくださしまして誠にありがとうございます。後ほど講話をよろしくお願いいたします。

さて、先日の 10 月 11 日に糸魚川の地で第32回第7分区インターシティーミーティングが開催されました。式典、講演会、懇親会と参加してきましたが、大変素晴らしい式典、講演会で多くの学びを得ることができました。特に講演会では地区ラーニング委員長、高橋秀樹様よりご講演いただき、マイロータリーを活用しようという演題でしたが、なぜマイロータリーを使った方がいいのかという所からお話いただき、大変わかりやすく勉強になりました。今後はマイロータリーを積極的に活用していきたいと思いますし、まだ登録されてない方は是非登録をお願いいたします。

また懇親会では、ジャズオーケストラによる演奏、糸魚川の美味しい料理、地酒を堪能させていただきました。第7分区の結束の強さ、仲の良さを改めて感じさせていただきました。懇親会の中で、IM ゴルフ大会の表彰式も開催されました。団体戦は惜しくも2位でしたが、個人戦では5位に長谷川さん、準優勝に相浦さん、そして私が優勝することができました。後ほどニコニコ BOX に投入させていただきます。

最後になりますが、寒い季節になり風邪も流行ってきています今日も欠席の方も数名いらっしゃると思います。体調管理をしっかり行い、社業、ロータリー活動に努めていただければと思います。

それでは本日も例会よろしくお願いいたします



お客様

第 2560 地区

ガバナー 室賀 信宏様
ガバナー補佐 小田島 修平様
地区幹事 関根 功雄様
新井妙高ローターアクトクラブ
幹事 星野楓香様

お食事

新駒寿司様
ちらし

出席報告

56.75 % (21/37 名)

前々例会訂正出席率

64.86% (10/1)

幹事報告

〔回 覧〕・いもり池湿原保全事業 ヨシ刈り活動 環境サポーターズ募集のご案内
・あいあう様より「子どもまんなかフェスタ」開催のご案内
〔メイクアップ、委員会等出席者〕・10/11(土)IM 出席、登録 22 名

ニコニコ BOX

室賀 信宏様
関根 功雄様
小田島修平様
横山会長

R I 会長 フランチェスコ・アレツォ

第 2 5 6 0 地区ガバナー 室賀 信宏
第 7 分区ガバナー補佐 小田島 修平 (糸魚川 RC)

会長 横山 明

幹事 中田浩太郎

広報・雑誌・会報・HP委員会 長谷川覚 稲生大樹

お礼をする機会をいただきまして誠にありがとうございます。10/11にIMを開催させていただきました。前年度の和泉ガバナー補佐を見習い、参考にして一生懸命やらせていただいたつもりです。皆様からも盛り上げていただき、大変ありがとうございました。ゴルフ大会では横山会長が優勝でした。おめでとうございます。



今から3年ほど前に、青少年奉仕委員会の卓話をこちらでいたしました。その時の心境と今の心境では違い、特に最近は地区大会の準備で大混乱しております。ぜひ今週末の地区大会は、新井妙高RCの皆さんにも楽しんでいただけるように頑張っておりますので、是非ともよろしくお願いいたします。



——プログラム—— ガバナー講話



はじめましてこんにちは。国際ロータリー2560地区2025-26年度ガバナーの室賀信宏と申します。所属は白根ロータリークラブです。どうぞよろしくお願いいたします。

めっきり寒くなりまして、今ほど地区幹事からもお話があった通り、3日後には地区大会という事です。そんな中での新井妙高クラブの公式訪問という事です。今、地区大会の準備でバタバタしているという状況であります。冒頭私の自己紹介を。1958年東京大田区蒲田で生まれました。そして33歳になるまで蒲田にて生活をしていました。33歳の時、私共の会社株式会社室賀シボリが新潟に工場を作るという事で、旧西蒲原郡月潟村に工場を建て、その責任者として新潟に参りました。当初、社長からは3年から5年位、工場を本格的に立ち上げたら東京に戻って来いと言われて、

新潟後に参りました。3年5年10年と経つうちに、新潟の工場が拡大していき、なかなか東京には戻れないという状況になりました。現在東京の本社、工場は私の息子が見ております。という状況で、33歳から今までずっと新潟におります。

そして縁があり、1999年白根RCに入会いたしました。1999-00年度、この2560地区、当時は群馬、新潟と2つの県をもって2560地区を構成しておりました。2つの県の最後の年、その時に入会いたしました。その年度、当クラブから今は亡き佐野孝さんがガバナーに就任されました。当時私は新人で、何も、何をしたいのかわからないという状況の中で地区大会を迎えたことを思い起こしております。その年のガバナーは、群馬館林RCの高木貞一郎さん、RI会長はカルロラビッツアさん、イタリアのRI会長でした。今年度私がガバナーを拝命いたしまして、RI会長はフランチェスコ・アレツツォさん、イタリアラグーザRC、イタリアの長靴の形の先端、シチリア島のメンバーです。入会した時もイタリアのRI会長、そしてガバナーを拝命した本年度もイタリアの会長という事で、私はイタリアに縁があるのかなと。私がガバナーエレクトの時、RI会長エレクトはマリオ・セザール・マルティンス・デ・カマルゴ氏、ブラジルの方でした。6月9日RIから辞任を発表されたという事で突然メールが届きました。理由につきましては、個人的ビジネス上の都合により続けられなくなったという事でありました。そして、その1週間後に緊急理事会が開催され、会長が選出されたという事です。当該年度の6月30日以前にRI会長エレクトがその職務を遂行できなくなった場合には、選出されたノミニ時代5人の候補者のうちの残りの4人の候補者から選出されると定款があり、それに則りRI理事の選挙により選出されます。

本年度のRI会長メッセージ「よいことのために手を取り合おう」～UNITE FOR GOOD～ 国際ロータリー「メッセージ」に違和感を感じませんか？ 昨年まではRI会長「テーマ」と皆さんにお示ししていたと思います。なぜ、「テーマ」が「メッセージ」なのか。皆さんご存じの通り、近年のRIでは単年度ではなく、活動をビジョンを持って進めていこうという方針に則り、テーマというのは当該年度のRI会長が国際協議会において皆さんにお示しになり、テーマというのは会長自身がお考えになり皆さんに発表する。今までは年度のロゴを作り皆さんにお示ししていました。テーマから年度へと替わった理由と同じように本年度からは年度のロゴは廃止されました。そして、メッセージというのは会長自身がお考えになり、RI理事会承認の後に皆さんに発表すると手順となっております。メッセージというものは長期にわたり使用するのか、3年間は使用するのかという質問を投げかけましたところ、それは年度ごとの会長によって変わるかもしれないし、そのまま使用するかもしれないという答えをいただきました。UNITE FOR GOODとさほど変わらない継続性を持ったメッセージを来年度以降も発信するという事でありました。

今年度RI会長が選出されたと同じ手順を踏み、RI会長エレクトはオンラインカ・ハキーム・ババオラさんという事です。出身はナイジェリアトランス・アマディ・ロータリークラブ所属であります。そしてメッセージを受け、アレツツォ会長は3つの事を挙げました。

1.



つながりを広げる

会員のニーズに応える充実した体験がクラブでできるようにすることが何よりも重要です。これは、クラブが新しい人々を温かく迎え入れ、柔軟になり、新しいアイデアにオープンになることを意味します。また、地域社会のニーズに敏感に対応することも意味します。

地域社会が何を必要としているかを知り、地域のリーダーと協力してぜひそれを実現してください。ロータリーでは、地元でのつながりを築くことが、世界的なインパクトを高めることになります。



よいことの
ために
手を動かそう

2.



対話と協力を育む

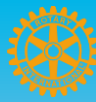
よいことのために手を取りあえば、世界だけでなく、私たち自身の中にも持続的な変化を生み出すことができます。大切なのは、互いに寄り添い、熱心に耳を傾け、友情を育むことです。私たちは、思いやりのあるコミュニティを築きます。また、互いを支え合うことで、私たち自身の成長にもつながります。

今年度ロータリーでどのような文化や体験をつくりたいかを話し合い、クラブで積極的参加を促進するための新しいアイデアや創造的な方法をぜひ試してみてください。



よいことの
ために
手を動かそう

3.



ロータリーと共に ポリオをなくそう

1988年以来、ポリオによって麻痺を患う子どもの数は99.9%減少しました。これは、近代史上最も成功した保健キャンペーンの一つであり、ロータリー会員が草の根の力を結集すれば持続的な変化が生み出せることの最良の例です。ここで歩みを止めることなく、世界の子どもたちとの約束を守らなければなりません。

今日、私たちは新たな課題に直面していますが、力を合わせればポリオの根絶は可能です。この目標を達成するためにロータリー会員とパートナー団体が共に取り組んだことは、必ずや歴史に刻まれるでしょう。



よいことの
ために
手を動かそう

2025-26年度国際ロータリー第2560地区目標として「ロータリーで善の循環を」を挙げさせていただきました。我々ロータリーが善の行動、善の事業を地元、日本、世界対象として行い、その善の心がロータリーの歯車のようにこの世の中で良い回転をしてほしい、そういう願いを込めて目標を挙げさせていただきました。各ロータリークラブが活発に活動していく為に地区は存在していると考えております。

本年度は3-Year Rolling Goalsの2年目に当たります。残念ながら各クラブメンバー一人一人にこのことが徹底されているとは言えません。ロータリー行動計画、クラブの戦略計画の作成をさらに浸透させることが重要です。

- ◆ 公共イメージの向上は長年の課題となっており、一般の人々にロータリーの活動を広く知っていただくことは、会員拡大のポイントであると考えられると思います。
- ◆ ロータリーファミリーのすそ野を広げること、そしてパートナーシップを広げること、はロータリーの拡大を意味します。各関係団体と手を取りあい、奉仕活動を展開していきましょう。

これらのすべては会員拡大を意味します。全てのメンバーが手を取りあいロータリーの発展を成し遂げましょう！。



国際共同委員会(ICC:Intercountry Committee)の設立に向けて

設立趣旨説明 日本は地区全体でウクライナの精神的支柱になる

21世紀の国際奉仕活動は、従来の地区レベル補助会を必要とされてきました。今、ウクライナを支援しようとすれば、従来の方式では困難な状況です。しかし、ICCが設立されれば、日本は国際奉仕活動の精神的支柱になることができます。ウクライナは国内で普通の生活を送るようになるには、発展途上国、産業、経済の面で助けが必要です。それは10年、20年という長い月日が必要になるのではないだろうか。

我々ができることは、国家レベルの支援は比較して、本当に必要とされている。ロータリーの支援は国家による支援より、現地のニーズに合わせてニーズを当てる方が可能です。

日本全体のロータリアンが国際共同委員会という形で、ウクライナの復興を支援するという役割を、ウクライナのロータリアンだけでなくウクライナ国民の精神的支柱になることができます。状況、状況の中で一番必要なのは、精神的支柱ではないでしょうか。日本全体のロータリアン行動を促すために国際共同委員会の設立の動きがあります。



2025-26年度国際ロータリー会長
フランチェスコ・アレツォ氏
(イタリア・ラヴェンナ・ロータリークラブ所属)





クラブのビジョンを持ち、戦略計画に則って活動しているクラブは活発で会員増強も成功していると考えています。メンバー1人1人がロータリー活動に励んでいただけたらと思っています。と室賀ガバナーのお言葉がありました。